

## 市民クラブ

住んで良かったと思えるまちづくりを目指して

## report.2

## 菊池 よしひと の9月定例会 一般質問

## ▶ 国民健康保険税 について

私は、平成30年度からの国民健康保険広域化によって国民健康保険制度が大きく変わった事、埼玉県で3番目に高い所得割率、国民健康保険財政調整基金11億7,342万7,000円（平成30年度末）、こういった現状を確認し、国民健康保険税の減税を提案しました。

質問 平成30年度からの国民健康保険広域化によって、どのように変わったのか。

答弁 都道府県が財政基盤の主体となった。市町村は県から提示された納付金を県に納付することになりましたが、代わりに医療機関に支払う医療費は県が全額負担することになりました。

質問 国民健康保険税の収納金額と収納率について、現状は。

答弁 蓮田市は収納金額12億6,605万2,000円、収納率94.41%です。埼玉県平均92.17%、全国平均92.89%のいずれも上回っています。

質問 国民健康保険財政調整基金について、現状は。

答弁 9月補正の1億9,484万7,000円を加えた基金残高は12億4,575万円でございます。

質問 財政状況の現状については。

平成30年度は16億2,626万1,108円を県に納付する事によって、県より療養費の交付金46億372万7,632円が入り療養給付費等45億8,966万6,396円を医療機関に支払っているという事でよろしいか？

答弁 その通りです。

質問 国民健康保険税の見直しについて、減税をすべきと思うが市長の見解は。

市長答弁 埼玉県一元化に合わせて蓮田市では課税方式を4方式から2方式に変更しました。埼玉県一元化に合わせて多くのシュミレーションを行って参りました。これからも色々なシュミレーションを行いながら、財政調整基金を有効活用しながら見直しをはかってまいりたいと考えています。

## ▶ 市道959号線 について

質問 現状は。

答弁 当該道路は舗装幅が3.0メートル程度しかなく、車両のすれ違いが容易にできない状況です。また、車両が路肩部分に寄る事から、舗装の端などが崩れている箇所もあり、このような箇所につきまちは、職員が補修をしている状況です。



市道959号線を北側より撮影

質問 今後の予定は。

答弁 車両のすれ違いが厳しい状況ですので、道路を拡幅する方向で考えております。今後は測量、用地買収、物件補償、工事の順で進めて参りますが、地権者のご協力が不可欠でございます。なお、道路を拡幅するまでには時間を要しますので、暫定的ではございますが、現在の公道部分において、すれ違いのための一時的な待避スペースを設ける予定でございます。

ほかに、学校教育の充実について（小・中学校大規模改修について、小・中学校トイレの洋式化について、中学校部活動推進事業について）を質問しました。

一般質問の議事録については [蓮田市のホームページ](#)→[市政情報](#)→[市議会](#)→[会議録の検索と閲覧](#)でご覧になれます。

## report.3

## はた くにお の9月定例会 一般質問

## ▶ 母子愛育会活動支援事業 について

質問 「母子愛育会支援事業」の概要と子育て支援策における母子愛育会の位置付けは。

答弁 蓮田市母子愛育会は、昭和32年に平野愛育班の発足で始まり、現在では市内7地区に分かれ、献身的に活動していただいています。蓮田市第5次総合振興計画にある「母子愛育会活動支援事業」は、母と子の健康づくりと子育て支援を目的に活動している母子愛育会の活動を周知し支援を行っていく事業です。子育て支援の中に占める母子愛育会の役割は大変重要だと認識しており、平成6年度からは母子愛育会の全連絡員に、市長が母子保健推進員を委嘱しています。

質問 母子愛育会の特徴と市の関わり、現状は。

答弁 現役で子育てしている若い方が連絡員として活動していることが蓮田市の大きな特徴です。母子愛育会は、全国組織であるという経緯や活動目的から、市が事務局事務を担っております。会員数などは減少傾向にあり、今年度当初は会員528名、連絡員89名です。



質問 母子愛育会の活動における課題についての市の認識は。

答弁 連絡員の交代が難しい地区、声掛け訪問が負担な地区など、地区ごとに様々な問題があることは認識しています。また、会員数や連絡員の減少に対する危機感も感じており、課題の一つ一つに丁寧に対応してまいります。

質問 母子愛育会の活動支援についての市の考えと今後の取り組みは。

答弁 母子愛育会は長い歴史もあり、決してなくしてはいけない大切な団体であると思っており、連絡員などの負担軽減も大切であると考えています。イベントの土日の開催については、関係者と協議し対応してまいります。また、活動のPRについては、さらなる強化を図ってまいります。これからは母子愛育会と緊密に連携し、子育て支援に係る諸問題を解決して、市と母子愛育会が協働し、蓮田市の母子愛育会活動の充実と発展に力を尽くして参りたいと考えています。

## ▶ 救急・緊急時の市民の安心・安全施策 について

質問 「救急医療情報キット」配布の経緯と現状は。

答弁 平成24年3月から民生委員を通じて配布しています。配布対象は市内に住所・住居があり、65歳以上のひとり暮らしの高齢者又は高齢者のみの世帯などですが、生活環境や身体状況等において必要と思われる方々には柔軟に対応しています。

消防本部では、高齢者の救急事案においては会話ができない場合も度々あり、必要な情報を本キットから得られることにより、迅速な救急活動につながっています。一方で、本キットがあればより円滑な救急活動が実施できたと想定された事例もあります。



救急医療情報キット

質問 障がい者への対応の実態と今後の考え方は。

答弁 市では平成30年度に「ヘルプカード」を作成し障がい者の方に配布しています。

消防本部では、聴覚障がい者の方の緊急通報のために、聴覚障害者協会と協議して「FAX119」を作成しました。更にスマートフォンを利用した「NET119緊急通報システム」についても関係機関と調査研究してまいります。障がいをお持ちの方の救急通報の方法等については、事前にいつでも消防にご相談いただければと思っています。

質問 外国人への取り組みは。

答弁 救急医療情報キットの外国語対応や周知方法については、他市の状況を調査・研究してまいります。

消防本部では、外国人に対しては、無料のスマートフォン翻訳アプリを活用しています。また電話通訳センターを介した三者間同時通訳「多言語コール」の導入も今後検討したいと考えています。

質問 本キットを全市民対象として配布することについては、(在庫分で数年間賄え、その後数十万円の経費)

答弁 救急医療情報キットについては、本当に必要な方に配布したいと考えており、今後、配布対象者の拡大や現状の配布方法の見直し等について検討してまいります。